鹿児島県立埋蔵文化財センター
Kagoshima Prefectural Archaeological Center

埋文だより

第21号

平成12年2月10日発行

復元された上野原縄文ムラ

上野原遺跡《国分市》

平成９年５月の現地公開以来，大勢の見学者でにぎわっている上野原遺跡ですが，今年度は大きな模様替えがありました。

平成１０年２月には，復元公開区に１１０本あまりのクヌギやトチノキなどの落葉広葉樹が植えられ，約９,５００年前の集落景観となりました。

７月には，復元家屋を増築する工事が始まり，補修も含めて合計１０棟の新築の復元家屋が揃いました。このうち１棟は家屋内の竪穴に橋を架け，車椅子で中まで入れるようにしました。

さて，この１０棟はどれも竪穴の中にＰ１３(約９,５００年前の火山灰)が入っていた住居跡を復元したもので，当時の「ムラ」はこのような家の配置だったと考えられます。これで，当時(約９,５００年前)の姿に，さらに一歩近づきました。

新しい「上野原縄文ムラ」に，大勢の方が見学に来られるのをお待ちしております。

目次　頁

・復元された上野原縄文ムラ…1
発掘遺跡紹介
・楠元遺跡 …2
・園田遺跡/長田遺跡 …3
・新任教職員研修/埋蔵文化財技術研修講座 …4
・持躰松遺跡/県民セミナー …5
・長期研修講座終了 …6

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は，
日曜日・祝日・年末年始を除き，毎日**午前９時～午後５時**まで，
入館料は無料です。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。

南九州にめずらしい木製品出土！

楠元遺跡 《川内市百次町》

楠元遺跡は,海抜約１０ｍの水田地帯にあり,九州新幹線建設に伴う発掘調査で発見されました。遺跡は，約17,000年前の弥生時代終わりから古墳時代初め頃（約16,000年前）のもので，竪穴式住居跡や水田に水を引く用水路と思われる杭を打ち込んだ溝跡が発見されました。

この中に，当時使われていた壷・かめなどといっしょに農耕をするために使ったと思われる数種類の鍬などや狩りで使用した弓，物を入れるための容器が，ほとんど腐ることなく完全な形のまま約２０点が出土しています。

杭列を伴う溝跡

右は，鹿児島県では出土例が少ない平鍬と二又鍬です。両方とも写真の部分に柄を組み合わせて使う「組み合わせ鍬」と呼ばれるものです。また，二又鍬の方は，右の一部がおれて無くなった状態のものです。他に，板材→加工途中材→製品のそれぞれの過程のものも出土しています。

平鍬

二又鍬

最長29センチ!! 石槍（石やり）みつかる

園田遺跡《熊毛郡中種子町》

園田遺跡（調査主体，中種子町教育委員会）は，熊毛郡中種子町納官の標高約１２０ｍの位置にあります。発掘調査は，農道整備事業に伴って実施されました。

その結果，３トレンチから合計８本の石槍が発見されたのです。石槍は，１本を除いてすべてが折られ，完成品にして４本ずつが２か所にまとめられていました。これは，意図的に石槍を折り埋納したためと考えられます。しかし，なぜこのような行為を行ったのでしょうか。

また，１５ｍ程離れた場所からは岩本式土器と呼ばれる土器も出土しています。土器と石槍との関係については今後，詳細に検討する必要がありますが，おそらくこの石槍は層位などから縄文時代草創期（11,000年前）の時期が考えられます。

約11,000年前の石槍

石槍出土状況

竪穴住居はなぜ燃えた？

長田遺跡《曽於郡有明町》

長田遺跡の遺構

古墳時代の焼け落ちた住居跡

長田遺跡（調査主体，有明町教育委員会）は，田原川の左岸の標高約32mの台地に立地する。弥生時代・古墳時代・中世の複合遺跡です。今回の発掘調査では，弥生時代の３軒の竪穴住居跡と掘立柱建物跡１軒，古墳時代の３軒の竪穴住居跡と掘立柱建物跡６軒，中世の土坑墓１基と掘立柱建物跡２軒などが検出されました。

古墳時代の住居跡では，住居を支えていた屋根が燃えて焼け落ちたと考えられる炭化した木材が検出されました。この住居跡の壁の回りには溝がめぐり，その溝には南側できれて小さな柱穴が残っていました。この溝が壁の跡で，溝がきれた場所が出入り口と考えられます。住居の構造を知るうえで貴重な資料です。

また，中世の土坑墓などからは，12世紀の完形の白磁碗２個が出土しました。

～ 埋蔵文化財センター～

新任教職員「考古学研修」講座開催される

小・中・高等学校の新任の先生方に考古学に興味を持っていただき，児童・生徒に考古学の魅力を伝えてもらおうという主旨で，今年初めて，新任教職員研修講座を８月17・18日に行いました。定数枠の関係から，結果的に７１名の参加となりましたが，申し込みは300名を越えました。

初日は，木下尚子熊本大学教授の講演「鹿児島の貝の道」を，聴講後土器の復元に取り組みました。２日目は上野原遺跡で，薫製作りや火起こし,編布織り，貝輪製作など古代体験を実感し，午後は桐木遺跡で暑い中，汗びっしょりになりながら発掘体験を行いました。

先生方は初めての体験に感激し，自分の貴重な経験を子供たちにもぜひ体験させたい，また，授業の中にこの体験を生かせていきたいと目を輝かせておられたのが印象的でした。

埋蔵文化財技術研修講座

埋蔵文化財センターでは，市町村の埋蔵文化財専門職員を対象に，発掘調査の技術水準の向上を目指して技術研修講座を行っています。今年度は11月18日・19日に，「遺跡を生かす保存科学～脆弱遺物の取り上げと土層剥ぎ取り～」と題して，もろくて壊れやすい遺物の取り上げ方や，遺跡の土層をそのまま剥ぎ取る方法などを研修しました。７３名の参加者がありました。

１日目はセンター研修室で講義や事例発表を受講し，２日目は上野原遺跡の復元公開区で実習を行いました。土層の剥ぎ取りや遺物の取り上げにはいろいろな薬品を使いますが，初めは恐る恐る扱っていた参加者も，ブクブク膨らむ発泡ウレタンなどおもしろそうに実習していました。今後地元で活用されることでしょう。

～解明進む中世の鹿児島～

持躰松遺跡《日置郡金峰町》

持躰松遺跡は，万之瀬川下流域の川が大きく蛇行して形成された自然堤防上に立地する遺跡です。万之瀬川の改修事業に伴って平成８年度から発掘調査が始まりました。これまで，縄文時代後期から室町時代にかけての遺物や遺構が発見されています。特に，鎌倉・室町時代には，中国からの陶磁器や国内各地からの土器・陶磁器等が搬入されています。

今年度は，中国製の白磁碗と青白磁の合子(小型で筒型の特殊な容器)が土坑墓（地面を掘りくぼめた墓）から出土しました。その他，完全な形の青磁や四耳壷(陶器の壷で肩部に四つ耳がついた壷)等の陶磁器等も出土しています。

また，中世の遺構としては，今年度までに掘立柱建物跡３軒，竪穴建物跡１軒，鍛冶炉跡等も発見されています。

中国との関わりや国内各地とどのように交流していたのか関心が持たれる遺跡です。

持躰松遺跡と万之瀬川

土坑墓から出土した白磁碗と合子

～歴史のふるさと県民セミナー～

「パネル巡回展・講演会」「発掘体験と古代の生活体験」

パネル巡回展での講演会

発掘体験と古代の生活体験

当センターでは，平成４年度開所以来，埋蔵文化財の調査研究と併せて，「歴史のふるさと県民セミナー」等の啓発・普及活動を行っています。

今年度は，『上野原遺跡への軌跡』と題して県内１０会場でパネル巡回展と講演会を実施しています。

また，７月３１日(土)には，末吉町の桐木遺跡と上野原遺跡で，『発掘体験と古代の生活体験』を実施しました。 県内各地から約７０名の親子が参加し，発見した縄文の土器に歓声をあげたり矢じりや土器・編み物など親子で仲良く取り組む姿が見られました。

今後のパネル巡回展は，以下の会場になっています。多数ご来場ください。

会　場	期　　間
姶良町図書館	３月22日～３月31日

長期研修講座終了

当埋蔵文化財センターでは，埋蔵文化財の専門職員を目指す市町村職員を対象に，調査・研究の方法や技術を修得するための研修講座を開講しています。毎年，県内各地から受講生が集まり，今年度は３名の職員が５月から１１月まで受講しました。

◎本年度受講生

伊集院町教育委員会　東　　政和
郡山町教育委員会　有川　孝行
徳之島町教育委員会　水野　　毅

～研修を終えて～

６か月間という長いようで短かった研修期間が「あっという間に終わって本当にやっていけるのだろうか」というのが実感であった。しかし，今までの研修期間の中で県立埋蔵文化財センターの職員の方々や各発掘現場の作業員の方々にいろいろと指導・助言等をいただいたなかに“自分一人でやっていくのではなく，周りの協力があるからこそやっていけるのだ”という言葉があった。この研修で知り得た人々とのふれあいを大切にし，埋蔵文化財保護行政に邁進していこうと思います。

（研修生）

平成１１年度　長期研修講座閉講式

平成１１年度人事異動

◎転入者

文化財調査員　田中　忠義　（新規採用）
文化財調査員　切通　雅子　（新規採用）
文化財調査員　徳田　有希乃（新規採用）

◎退職者

文化財調査員　松村　智行（12月31日付）

埋文だより　第21号
発行日：平成12年２月10日
編集・発行
鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-5652
鹿児島県姶良郡姶良町平松6252
TEL　0995-65-8787
FAX　0995-65-8117